

♪鬼のパンツはいりパンツ～



節分プログラム「顔出し鬼のお面づくりとダンス」を楽しみました！

今年の節分は、中川優希先生の指導による「顔出し鬼のお面づくり」で出来上がったお面をつけて全員で「鬼もパンツ」を元気に踊りました。その他、様々なゲームで盛り上がり、殻付き落花生の中の豆を美味しくいただき、健康、幸せを願いました。



AIが社会を動かすような時代になりつつありますが、日本の伝統的な行事や風習を大切にする事で先人たちの知恵や精神を学ぶことを忘れてはなりません。クレヨンぽけっとの学習体験プログラムではこれからも日本の四季折々の行事や風物を取り入れていきたいと考えております。ご理解、ご協力いただきますようよろしくお願いいたします。





久しぶりに「鵜の目鷹の目」を掲載させていただきます。2025年度もあと2か月となり、4月からはまた新しい子どもたちを迎えて、にぎやかな毎日が始まりますが、うまく馴染んでほしいと願う気持ちとあふれる笑顔への期待が膨らみます。と同時に、私には孫のような子どもたちの10年後、20年後がどのような世の中になっているか気になる昨今です。「鵜の目鷹の目」で徒然なるままにあれこれ書かせていただきますのでよろしくお願いいたします。



by 金子信夫

「小学生取扱説明書」(やまかな著 理工図書)読んでみました

私事ですが、昨年1月に顔面神経麻痺で緊急入院しましたが、半年が過ぎ1年が過ぎた現在、残念ながら完治には至らず、いまだに左瞼や左頬が十分に動かない状態が続いています。

クレヨンぼけっとの子どもたちは「大丈夫?」「少し良くなったみたい」などと気を遣ってくれるのでとてもありがたく、気持ちが安らぎ、元気になることができます。みんなよい子の小学生たちですが、ご家庭での保護者の皆様のご尽力やご苦労に頭が下がります。

最近、小学生のあるあるを本にしたとの情報を得て、早速、「小学生取扱説明書」という本を購入し、読んでみました。著者は元保育士で3児の母でもある「やまかな」さん、育児のあるあるをユーモアと共感で描き、Instagramで多くの支持を集めているとのこと。

内容は、特に子育て中のお母さんから強い共感を得ることが多いかと思いますが、思わずニヤリとさせられたり、大きくうなずいたりすることがたくさん書かれています。抜粋しながら紹介しつつ、私なりの感想なども書かせてもらいます。

第1章は小学生の「基本性能と初期設定」で「毎日何かしら忘れる仕様になっております」「帰宅した際はもれなく砂がついております」「ポケットの中のティッシュにご注意ください」などの基本あるあるが書かれています。ポケットのティッシュに気づかず洗濯してしまい大変なことになった経験のある方は多いのではないのでしょうか?

第2章は「日々の誤作動とトラブル対処」で「金曜日に上履きや体操着を持って帰ってこないことがよくあります」などよくある「誤作動」が書かれています。「訳の分からないことで爆笑している時がありますが、故障ではありません。バグの一種です」はクレヨンぼけっとでもたまに見かけることがあります。

第3章は「小学生男子の特別仕様」、「ある日突然オレと言い出します」など幼児から児童への脱皮症状(?)が書かれています。「3歩歩くと忘れず。これは二ワトリと同じ機能によるものと考えられます」はDNA的特性なのかも知れません。

もっとも、私は認知機能トラブルで「朝食を食べたかどうか忘れる」ことを恐れています。

第4章は「小学生女子の特別仕様」で「とにかくおませにできており、親より大人です。母より女です」「母の口調を真似しますのでご注意ください」など女子仕様が書かれています。「ある日突然自分のことを『うち』と呼び始めます」などは中学生女子では常套句のようで、最近では「ボク」と呼ぶ女性タレントも普通になりつつあるようです。

第5章は「新1年生の基本構造」で、「年長さんの時にすごく大きくなったと感じたのに、1年生になったらまたすごく小さく感じます」「防犯ブザーを鳴らしがちです」「宿題が嬉しくて張り切りますが、新1年生の初めだけにみられる貴重な現象です」等々。

初めて新1年生を送り出す保護者の皆さんには参考になる「あるある」かもしれませんが、防犯ブザーは今でもクレヨンぼけっとで聞くことができます(笑)。宿題を嬉しいと感じている小学生はほとんどいませんが、早く終わらせることに喜びややる気を感じている子はたくさんいます。

「6歳の子どもが学校に行き無事に帰ってくるだけですごいいいことです。それだけでできればなまますです」は他の場面でも大切な考え方だと思います。できて当たり前、当然だ、もっともっと上を、と欲張り始めると子どもにも保護者にもストレスがたまり始めます。

第6章は「小学生のママあるある」では「子どもの生年月日、西暦、元号で大混乱」など。

第7章は「取扱いに慣れてきた頃の心得」では「みんなが持っている物をせがみますが、みんなではありません。せいぜい2~3人です」は、保護者を不安にさせ承諾させる技であり、昔からあります。

「クソババアなどと暴言を吐くことがあります、時々発生する標準機能です」も発達に伴うお話し言語の一例です。免疫、耐性づくりに役立つと思ってください。

以上、小学生の特性への対応「取扱説明書」の紹介になりますが、コーヒーでも飲みながら気軽に読み流すことができる「トリセツ」です。興味のある方はクレヨンぼけっとに置いておきますのでお貸しいたします。

1回2日間以内でお願いします。

